

平成26年度

田原本町教育委員会活動点検評価報告書

(平成25年度実施事業分)

平成27年2月

田原本町教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第27条第1項の規定に基づき、平成25年度に田原本町教育委員会が実施した教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価の結果について報告します。

平成27年2月18日

田原本町教育委員会

目 次

○はじめに	1
○教育委員会の運営・活動状況	2
○点検・評価項目	
・ 幼児教育の推進	3
・ 小・中学校教育の推進	5
・ 特別支援教育の推進	7
・ 学習体制の充実	9
・ 生涯学習環境の充実	11
・ 図書館事業の充実	13
・ 文化活動の促進	15
・ スポーツに親しむ環境の整備	17
・ スポーツ・レクリエーション活動の普及・啓発	19
・ 文化財保護事業	21
・ 唐古・鍵考古学ミュージアム運営事業	23

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、平成20年4月から、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。

この報告書は、同法の規定に基づき、田原本町教育委員会が行った点検・評価の結果をまとめたものです。

II 点検・評価の基本方針

1 点検・評価の目的

法改正を受け、町教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行状況を自ら点検・評価し、その結果を議会に報告するとともに、住民に公表することといたしました。

この点検・評価は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民に対する説明責任を果たしていくことを目的としています。

2 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、「田原本町第3次総合計画」第2章「人が生きいきと輝くまなびのまちづくり」の教育関連施策を点検・評価の対象としました。

点検・評価の対象年度は、平成25年度です。

- (1) 田原本町教育委員会の運営・活動状況
- (2) 「田原本町第3次総合計画」に基づく施策体系ごとの点検・評価(11施策)

3 点検・評価の方法

「田原本町第3次総合計画」に基づく施策体系ごとに、進捗状況の参考となる指標及び実施事務事業の実績を掲載しています。

上記の指標及び実施事務事業の実績を基に、教育委員会で点検・評価を行います。評価にあたっては、客観性を確保するために、外部の学識経験を有する方から施策や事業についてご意見をいただいております。

【点検評価委員】

(敬称略 五十音順)

役 職	氏 名	備 考
委 員	住本 友成	学識経験者(教職経験者)
委 員	平井 洋一	学識経験者(行政経験者)

田原本町教育委員会の運営・活動状況

1 教育委員

(平成26年 3月31日現在)

職名	氏名	職業	就任年月日	任期満了年月日
委員長	後藤田 和子	無職	H21. 3. 2	H27. 9. 21
委員	田部井紀美子	無職	H23. 12. 22	H27. 12. 21
委員	宮本 安男	会社員	H24. 12. 23	H28. 12. 22
委員	森 章浩	団体役員	H21. 12. 24	H29. 12. 23
委員(教育長)	片倉 照彦	公務員	H22. 9. 8	H29. 3. 31

2 教育委員会議の開催状況

・教育委員会定例会……10回

3 教育委員会議の審議状況

・報告事項……16件

・審議事項……26件

4 教育委員の活動状況

・定期学校訪問実施(年1回)……幼稚園5園・小学校5校・中学校2校

・幼稚園・小学校・中学校行事への参加……入園式・入学式・運動会・卒園式・
卒業式及び各種研究会等

・各種研修会への参加……近畿市町村教育委員研修大会(橿原市)・人権教育各
種研究大会・青少年健全育成各種研究大会等

・各種行事への参加……成人式等

施策評価シート(対象:H25年度実施施策)

施策名	幼児教育の推進			総合計画位置づけ	2-1-1
部名	教育委員会	主担当課名	教育総務課	担当課名	-

1. 施策概要

めざす成果目的	幼児の心身の健全な発育を促すため、幼稚園・保育園・家庭が連携し幼児教育の充実を図る。また、保護者の経済的負担を軽減することにより、多くの園児が充実した幼児教育をうけることができ、保護者も経済的な不安を感じないで通園させることができる。
施策概要	幼児教育の整備。就学前教育の推進。安心・安全な幼児教育の創出。幼児教育の支援。

2. 実施結果

指標名 説明	単位	H25年度	H26年度	H27年度	後期基本計画目標 H28年度	H29年度
		(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
公立・私立幼稚園就園率	%	60	60	60	60	60
対象年齢者に対する公立・私立幼稚園の園児在籍率		55				
保育園・小学校との連携回数	回	43	48	53	58	58
合同運動会や音楽鑑賞会等交流・連携回数		46				
(説明)						

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度H25年度)

事務事業名	担当課名	H25年度事業費(決算額 単位:千円)	必要性の点検	目標達成状況の点検	実施内容方法の点検
幼稚園運営事業(一部)	教育総務課	218,658	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
幼稚園施設管理整備事業	教育総務課	11,529	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
幼稚園教育振興事業	教育総務課	2,281	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		232,468			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 最終目標(H27)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input checked="" type="radio"/> B 最終目標(H27)達成に向け、順調に成果があがっている <input type="radio"/> C このままでは、最終目標(H27)達成が難しい (説明) 公立幼稚園の就園率は50パーセント。公立・私立をあわせた就園率は55パーセントと目標値を少し下回っているが、保護者からのニーズの高い3歳児保育も定着してきており、一定の成果があがっていると考えている。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある (説明) 今後も、子育てに悩む家庭が増加し、幼稚園の果たすべき役割が大きくなると予想される。いっそう開かれた幼稚園づくりを推進し、家庭の要望や地域の実態に応じた積極的な子育て支援が必要と考えられる。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 安心・安全な幼児教育の創出には、幼稚園施設の老朽化の解消が必要である。

4. 次年度の展開方針(部としての判断)

施策の方向性	[複数選択可] <input type="checkbox"/> 重点化して推進 <input type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input checked="" type="checkbox"/> その他(現状の水準を維持する)				
	(説明) 小学校就学前教育としての位置づけのもと、幼児一人ひとりの個性を伸ばし、個々の発達段階に応じた教育を充実させるため、地域の自然や歴史・文化などとのふれあいを通じた幼児教育を推進する。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	H25年度 決算 (単位:千円)	H26年度 予算 (単位:千円)	優先性	H27に向けた 経営資源(事業費)の 方向性
	幼稚園運営事業(一部)	218,658	238,672	3 普通	現状のまま
	幼稚園施設管理整備事業	11,529	14,153	5 最優先	拡大
	幼稚園教育振興事業	2,281	4,924	3 普通	拡大
	計	232,468	257,749		
内部評価のコメント	各園とも、保護者が安心して子育てが行えるような施策・事業を実施し、幼稚園教育の充実を図っていると評価する。保護者のニーズも踏まえつつ、幼稚園と保育園の違いを理解していただき、就園率の向上に努める。				
外部評価委員のコメント	現在社会や保護者のニーズに応え、幼児教育を推進させるためには、幼稚園だけでなく、保育園に通う幼児についても考慮する必要があると考えます。情報交換や情報共有など双方が連携・交流し、年齢に応じた基本的な生活習慣を身につけるなど幼児教育の推進をしていただくと共に、保護者が働いている、いないにかかわらず就学前の子どもを受け入れ、教育・保育を一体的に行い、すべての子育て家庭を対象に、子育て不安等に対応した相談業務を集約した「認定こども園」の設置も検討すべきと考えます。また、幼稚園については、著しく園児が減少している園や施設の老朽化等も踏まえ、統合・再編等も検討していただきたい。				

施策評価シート(対象:H25年度実施施策)

施策名	小・中学校教育の推進	総合計画位置づけ	2-1-2
部名	教育委員会	主担当課名	教育総務課
		担当課名	-

1. 施策概要

めざす成果目的	児童・生徒及び保護者にとっても、安全で安心できる学校に通学することにより、確かな学力の定着を図るとともに、体力を向上させ、心豊かな人間性を育む。
施策概要	教育環境の整備。職業観や人生観の醸成。教育体制の確立。安心・安全な教育環境の整備。関係機関との連携。

2. 実施結果

指標名 説明	単位	H25年度	H26年度	H27年度	後期基本計画目標 H28年度	H29年度
		(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
学校施設の耐震化率。	%	88	95	100	100	100
強度を確保している学校施設 (小学校5校・中学校2校)の割合		88				
小学校不登校児童数	人	6	5	4	4	4
1年間に連続して又は断続して30日以上欠席した児童数 (学校基本調査)		17				
中学校不登校児童数	人	16	14	12	11	11
1年間に連続して又は断続して30日以上欠席した児童数 (学校基本調査)		25				

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度H25年度)

事務事業名	担当課名	H25年度事業費(決算額 単位:千円)	必要性の点検	目標達成状況の点検	実施内容方法の点検
小学校運営事業	教育総務課	91,747	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
小学校施設管理整備事業	教育総務課	88,413	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
学校給食事業	教育総務課	58,883	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
小学校教育振興事業(一部)	教育総務課	8,681	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
小学校サポート体制支援事業(一部)	教育総務課	1,342	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
中学校運営事業	教育総務課	43,541	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
中学校施設管理整備事業	教育総務課	70,607	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
中学校教育振興事業(一部)	教育総務課	4,366	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
中学校サポート体制支援事業(一部)	教育総務課	3,842	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
事務局運営事業(一部)【ALT派遣事業】	教育総務課	7,570	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		378,992			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 最終目標(H27)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input checked="" type="radio"/> B 最終目標(H27)達成に向け、順調に成果があがっている <input type="radio"/> C このままでは、最終目標(H27)達成が難しい (説明) 児童・生徒の学力向上を目指し、基礎・基本の学習に取り組んでいる。引き続き一人ひとりを大切に学習を進めていきたいと考えている。また、耐震化工事に関しては、学校施設耐震化計画によりほぼ順調に工事を施工している。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input checked="" type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある (説明) 児童・生徒が一日の大半を過ごす学校校舎の耐震化工事に関しては、東南海・南海地震防災対策推進計画に基づき大規模な地震の発生を予測して、学校施設耐震化計画を予定どおり施工しているが、学校施設の老朽化対策が必要となる。また、食物アレルギー対策をはじめ、地産地消等食育を推進する必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 社会状況の変化に伴い、児童・生徒の規範意識が低くなり、基本的な生活習慣が乱れやすい傾向にある。また、大半の建物が建築後30年以上経過して、施設の老朽化が進行しており財源の確保が課題となっている。

4. 次年度の展開方針(部としての判断)

施策の方向性	[複数選択可] <input type="checkbox"/> 重点化して推進 <input type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input type="checkbox"/> その他 () (説明) 児童・生徒が将来を見据え、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、意欲的に学習に取り組むことができるよう教育内容や教育環境の整備に努めて、安心して教育を受けることができる環境を整える。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	H25年度 決算 (単位:千円)	H26年度 予算 (単位:千円)	優先性	H27に向けた 経営資源(事業費)の 方向性
	小学校運営事業	91,747	97,133	3 普通	現状のまま
	小学校施設管理整備事業	88,413	83,242	5 最優先	現状のまま
	学校給食事業	58,883	92,627	4優先性が高い	拡大
	小学校教育振興事業(一部)	8,681	11,492	3 普通	現状のまま
	小学校サポート体制支援事業(一部)	1,342	2,142	3 普通	現状のまま
	中学校運営事業	43,541	41,033	3 普通	現状のまま
	中学校施設管理整備事業	70,607	28,532	5 最優先	縮小
	中学校教育振興事業(一部)	4,366	5,982	3 普通	現状のまま
	中学校サポート体制支援事業(一部)	3,842	2,797	3 普通	現状のまま
	事務局運営事業(一部)[ALT派遣事業]	7,570	7,790	3 普通	現状のまま
	[新規]				
計	378,992	372,770			
内部評価のコメント	児童・生徒が一日の大半を過ごし、地域の避難所ともなる学校施設は耐震補強工事を計画どおり順調に施工できている。いじめ・不登校については、目標を下回る形となっており、全教職員での情報の共有・関係機関との効果的な連携などを強化して、指導の徹底を図る必要がある。また、学校給食については、食材の産地を公表するなど美味しく安心・安全な提供に努めた。				
外部評価委員のコメント	学校の耐震化の推進により、安心安全な児童・生徒の教育環境及び地域住民の避難所が確保されているのは評価します。また、多様化する教育環境において「心の教育」が重要と思われるため、学校と家庭・地域との連携やスクールカウンセラーの効果的な活用等、今後の取組に期待します。食育の推進については、学校給食の役割の重要性が高まっており、今まで以上に食材の安全に配慮してバランスのとれた美味しい給食を提供されるとともに地産地消にも努力をしていただきたい。				

施策評価シート(対象:H25年度実施施策)

施策名	特別支援教育の推進			総合計画位置づけ	2-1-3
部名	教育委員会	主担当課名	教育総務課	担当課名	-

1. 施策概要

めざす成果目的	学習障害(LD)、注意欠陥/多動性障害(ADHD)、広汎性発達障害(PDD)等を含めて、障害のある幼児・児童・生徒がいそいそとした学校生活を送り、いっそうの自立と社会参加を促す。
施策概要	幼児・児童・生徒に対して個々の発達に応じた適切な教育の推進。就学の支援。

2. 実施結果

指標名 説明	単位	H25年度	H26年度	H27年度	後期基本計画目標 H28年度	H29年度
		(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
通級指導教室活用者数	人	9	10	11	12	12
		13				
特別支援教育コーディネーターの学校配置率	%	100	100	100	100	100
特別支援教育コーディネーターの小学校・中学校への配置率		100				
特別支援教育コーディネーターの学校配置率	%	100	100	100	100	100
特別支援教育コーディネーターの小学校・中学校への配置率		100				

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度H25年度)

事務事業名	担当課名	H25年度事業費(決算額 単位:千円)	必要性の点検	目標達成状況の点検	実施内容方法の点検
小学校教育振興事業(一部)	教育総務課	887	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
中学校教育振興事業(一部)	教育総務課	199	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
幼稚園運営事業(一部)	教育総務課	11,282	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
小学校サポート体制支援事業(一部)	教育総務課	9,434	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
中学校サポート体制支援事業(一部)	教育総務課	5,520	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		27,322			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 最終目標(H27)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input checked="" type="radio"/> B 最終目標(H27)達成に向け、順調に成果があがっている <input type="radio"/> C このままでは、最終目標(H27)達成が難しい (説明) 特別な支援を必要とする児童・生徒の経済的負担を軽減し、よりよい教育環境を整えることは、学校・保護者ともに需要度が高く、一定の成果を上げている。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある (説明) 近年、特別な支援を必要とする児童・生徒が、地域の学校に就学するケースが増加傾向にある。そのため、今後も積極的に特別支援教育を進めていく必要性がある。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 特別支援教育では、児童・生徒の個性に応じた教育が必要であり、発達障がいを含む障がいのある子どもたちを適切に支援するため、特別支援教育コーディネーターと特別支援教育支援員の適切な配置に努めるとともに、教育内容の充実・就学に係る費用の援助を必要とする世帯への援助を確実に行っていくこと等より良い支援が実現できる体制が求められている。

4. 次年度の展開方針(部としての判断)

施策の方向性	[複数選択可] <input type="checkbox"/> 重点化して推進 <input type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input checked="" type="checkbox"/> その他 () (説明) 通常学級において個別の支援が必要な児童・生徒や、特別支援学級で個別の指導と支援を必要とする児童・生徒が増加しており、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導の充実を図る。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	H25年度 決算 (単位:千円)	H26年度 予算 (単位:千円)	優先性	H27に向けた 経営資源(事業費)の 方向性
	小学校教育振興事業(一部)	887	1,550	3 普通	現状のまま
	中学校教育振興事業(一部)	199	374	3 普通	現状のまま
	幼稚園運営事業(一部)	11,282	13,861	3 普通	現状のまま
	小学校サポート体制支援事業(一部)	9,434	9,944	3 普通	現状のまま
	中学校サポート体制支援事業(一部)	5,520	5,935	3 普通	現状のまま
	[新規]				
	計	27,322	31,664		
内部評価のコメント	発達障がいを含む障がいのある子どもたちへの適切な支援が求められているなか、教員の配置基準に基づき、配置されている教師のマンパワーだけでは十分な支援が困難な状況にある。学校現場からは、特別支援教育に対する人員配置の要望が増加しており、特別支援教育の普及奨励を図るため、今後も特別支援教育コーディネーター・特別支援教育支援員の充実に努める。				
外部評価委員のコメント	特別な支援を必要とする児童・生徒は増加している中、通級指導教室や学習支援員を活用する環境があるということは、関係の児童・生徒にとって有意義なことである。今後も必要に応じた複数配置を図ると共に、教員免許保有者や特別支援教育経験者を優先的に任用するなど教育相談・カウンセリング体制のさらなる充実をしていただきたい。				

施策評価シート(対象:H25年度実施施策)

施策名	学習体制の充実			総合計画位置づけ	2-2-1
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課	担当課名	-

1. 施策概要

めざす成果目的	学びたい人が学びたい時に学べるよう、様々な学習の機会や情報を提供し、人と人との繋がりを広げるとともに、自己を向上させることで地域・町づくりに繋げる。
施策概要	各種教室・講演会・地区別懇談会等を開催して、様々な学習機会を提供する。また、子どもを対象とする教室を開催する。

2. 実施結果

指標名 説明	単位	H25年度	H26年度	H27年度	後期基本計画目標 H28年度	H29年度
		(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
教室の開催数(公民館学習・放課後子ども教室・理科大好き教室等) (説明) 年間に開催した教室の数	回	300	300	300	300	300
		421				
子ども文化教室開催数 (説明) 年間の教室開催回数	回	59	59	59	59	59
		48				
子ども文化教室参加者数 (説明) 年間の参加者数	人	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
		1,010				

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度H25年度)

事務事業名	担当課名	H25年度事業費(決算額 単位:千円)	必要性の点検	目標達成状況の点検	実施内容方法の点検
公民館学習事業	生涯教育課	6,698	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
青少年健全育成推進事業	生涯教育課	10,196	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
人権教育指導事業	生涯教育課	3,952	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		20,846			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 最終目標(H27)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input checked="" type="radio"/> B 最終目標(H27)達成に向け、順調に成果があがっている <input type="radio"/> C このままでは、最終目標(H27)達成が難しい (説明) 指標の目標達成に向け、着実に成果が上がっている。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある (説明) 様々な公民館学習教室に参加することで、住民が自分にあった趣味を見つけ、仲間作りをするなど公民館学習の持つ意味は大きい。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 公民館学習では、参加者の固定化、高齢化が見られる。

4. 次年度の展開方針(部としての判断)

施策の方向性	[複数選択可] <input type="checkbox"/> 重点化して推進 <input checked="" type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input type="checkbox"/> その他 () (説明) 公民館学習では、教室を3年間続けた者には、自主的なサークルへの移行を奨励し、活性化を図る。また、新しい教室の開催を模索する。青少年健全育成では、放課後子ども教室の開催を継続して行い、学校・地域を含む全町をあげた取り組みを行う。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	H25年度 決算 (単位:千円)	H26年度 予算 (単位:千円)	優先性	H27に向けた 経営資源(事業費)の 方向性
	公民館学習事業	6,698	7,769	3 普通	現状のまま
	青少年健全育成推進事業	10,196	10,334	3 普通	現状のまま
	人権教育指導事業	3,952	4,125	3 普通	現状のまま
	[新規]				
	計	20,846	22,228		
内部評価のコメント	公民館学習では、教室や講座を開催しているが、パソコン教室のように参加希望が非常に多いものと、少ないものがあり、住民の意見を反映し教室等の見直しを図る必要がある。子どもを対象とした教室は、希望が多く、全員の受け入れができないのが現状であり、改善が必要である。				
外部評価委員のコメント	公民館学習は生涯学習の中核をなすもので、すべての住民が健康で文化的な生活をしていく上での糧となりうるように教室・講座の内容を工夫していただき、特に高齢化については、団塊の世代が後期高齢者となる10年後には、一人暮らしや、認知症老人の増加など様々な問題をだかえていることから、高齢者の世代に応じて興味をひく、教室・講座の開催に努力していただき参加者の交流がまちづくりへと活かせるような仕組みを作っていたきたい。				

施策評価シート(対象:H25年度実施施策)

施策名	生涯学習環境の充実			総合計画位置づけ	2-2-2
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課	担当課名	-

1. 施策概要

めざす成果目的	安全で快適に利用できる施設環境の充実を図ることにより、住民の学習活動が活性化する。
施策概要	田原本青垣生涯学習センターは、生涯学習施設として町民の方々に活用されており、安全・快適に利用できるように、環境整備を行う。また、学校の体育施設を学校教育に支障のない範囲において、地域住民に開放する。

2. 実施結果

指標名 説明	単位	H25年度	H26年度	H27年度	後期基本計画目標 H28年度	H29年度
		(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
公民館の利用件数 <small>(説明) 年間の公民館の利用件数</small>	回	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400
		2,484				
学校開放利用件数 <small>(説明) 休日・夜間に小・中学校を住民に開放している年間件数</small>	件	3,000	3,000	300	3,000	3,000
		2,948				
<small>(説明)</small>						

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度H25年度)

事務事業名	担当課名	H25年度事業費(決算額 単位:千円)	必要性の点検	目標達成状況の点検	実施内容方法の点検
生涯学習センター管理事業	生涯教育課	92,093	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		92,093			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 最終目標(H27)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input checked="" type="radio"/> B 最終目標(H27)達成に向け、順調に成果があがっている <input type="radio"/> C このままでは、最終目標(H27)達成が難しい (説明) 公民館の利用は多く、目標は達成している。学校開放についても利用度が高い。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある (説明) 公民館は、住民の生涯学習の場として、多くの方々に利用されており、今後も利用拡大が見込まれることから環境整備に努める必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 青垣生涯学習センターは、開館10周年を迎え、機器の修理をするにも部品がないという状況になってきている。定期的な点検を行ってはいるが、突発的な故障が起こる可能性がある。

4. 次年度の展開方針(部としての判断)

施策の方向性	〔複数選択可〕 <input checked="" type="checkbox"/> 重点化して推進 <input type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input type="checkbox"/> その他 ()				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	(説明) 町民が快適に施設を利用できるよう適切な維持管理を行っていく。				
	事務事業名	H25年度 決算 (単位:千円)	H26年度 予算 (単位:千円)	優先性	H27に向けた 経営資源(事業費)の 方向性
	生涯学習センター管理事業	92,093	92,768	4優先性が高い	拡大
	[新規]				
	計	92,093	92,768		
内部評価のコメント	来館者・利用者が安全かつ快適に利用できるよう、優先順位を付けた修理や機器の入れ替えを順次行っていく必要がある。				
外部評価委員のコメント	青垣生涯学習センターは、住民が生涯に亘って学習するための場を提供する施設として優れた機能を持っている。多くの住民の利用を得ているようですが、今後も住民が快適に学習できるよう、経費節減に努めながら、維持管理に努めていただきたい。				

施策評価シート(対象:H25年度実施施策)

施策名	図書館事業の充実	総合計画位置づけ	2-2-3
部名	教育委員会	主担当課名	図書館
		担当課名	-

1. 施策概要

めざす成果目的	町民が読書の楽しみを知り、趣味や生きがいを持って豊かなサービスが送れるように資料を提供し、自発的な学習の支援を行うと共に、地域の情報拠点としての図書館サービスの充実を図る。
施策概要	郷土資料を含む多種多様な分野の資料を収集し、蔵書の充実を図る。学校等と連携を図り、子どもの読書活動を推進する。各種講習会や広報活動を行い、利用の促進を図る。多様なレファレンスに対応するため、資料に精通した職員の育成に努める。

2. 実施結果

指標名 説明	単位	H25年度	H26年度	H27年度	後期基本計画目標 H28年度	H29年度
		(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
蔵書冊数	冊	183,972	188,972	193,972	198,972	203,972
(説明) 年度末の蔵書冊数		188,502				
貸出冊数	冊	582,800	582,800	582,800	582,800	582,800
(説明) 年間の個人・団体・相互総貸出し冊数		505,752				
登録率	%	55	55	55	55	55
(説明) 町民の図書館利用カード登録率		55				

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度H25年度)

事務事業名	担当課名	H25年度事業費(決算額 単位:千円)	必要性の点検	目標達成状況の点検	実施内容方法の点検
図書館収集提供事業	図書館	17,966	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
子ども読書活動推進事業	図書館	78	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
図書館利用促進事業	図書館	0	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
図書館運営管理事業	図書館	8,042	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		26,086			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 最終目標(H27)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input checked="" type="radio"/> B 最終目標(H27)達成に向け、順調に成果があがっている <input type="radio"/> C このままでは、最終目標(H27)達成が難しい (説明) 蔵書冊数は計画通り成果が上がっているが、新館建設当時の古い蔵書が多く廃棄作業が追いついていないため、蔵書冊数が大幅に数値を上回っていると考えられる。次に、登録率に関しては高年齢のカード未利用者の生死確認を行い、削除を行ったにもかかわらず、登録率は概ね目標を達成できた。貸出冊数に関しては、町内利用者の利用が減っており、目標値を大きく下回っている。早急に利用促進を行う必要がある。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある (説明) 生涯学習の意識の高まりにより、学べる場が重要になってきている。図書館は知的欲求を満たすことができる施設であり、生涯学習の拠点である。大人から子供まで住民全ての課題解決を支援し、地域の学習・情報拠点として、今後も図書館が必要とされると思われる。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 貸出の減少の流れの原因を多角的に検討する必要がある。また、利用しない人への働きかけをどう行っていくか、行政機関や教育機関と連携して利用促進を図っていく必要がある。

4. 次年度の展開方針(部としての判断)

施策の方向性	[複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化して推進 <input checked="" type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input type="checkbox"/> その他 () (説明) 時代に対応していない古い蔵書の書庫入れ・廃棄を行い、新しく魅力ある蔵書構成を目指す。教育機関との連携を行うために、子ども読書活動推進委員会を復活させる。レファレンスサービスを周知し、図書館で気軽に課題解決ができることを住民に知らしめる。また、気軽に問い合わせができるようカウンターで対応する職員のレファレンススキルや接客スキルを向上させる。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	H25年度 決算 (単位:千円)	H26年度 予算 (単位:千円)	優先性	H27に向けた 経営資源(事業費)の 方向性
	図書館収集提供事業	17,966	18,605	5 最優先	現状のまま
	子ども読書活動推進事業	78	44	3 普通	現状のまま
	図書館利用促進事業	0	0	3 普通	現状のまま
	図書館運営管理事業	8,042	8,244	3 普通	現状のまま
	[新規]				
	計	26,086	26,893		
内部評価のコメント	蔵書冊数及び図書館利用カードの登録率は目標を達成しているが、常に魅力ある蔵書構成にするため、中学生アンケート等を活用し、住民のニーズに沿った選書を行っていく。また、広報やホームページ等で図書館をPRし、利用を促していく必要がある。				
外部評価委員のコメント	蔵書冊数について目標を達成したことは評価できる。量だけでなく質の向上も目標に引き続き努力してもらいたい。図書館未利用者の実態を把握し、障害となっていることが何であるか検討し、利用減少に歯止めがかかるよう適切な対応をしていただきたい。				

施策評価シート(対象:H25年度実施施策)

施策名	文化活動の促進			総合計画位置づけ	2-2-4
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課	担当課名	-

1. 施策概要

めざす成果目的	弥生の里ホールの利用促進を図り、住民が多様な文化・芸術に触れられる機会を提供する。
施策概要	弥生の里ホールでは、質の高いイベントを開催する。また、文化団体や社会教育関係団体の文化に関わる活動を支援し、日頃の文化活動の発表の場として文化祭を開催する。

2. 実施結果

指標名 説明	単位	H25年度	H26年度	H27年度	後期基本計画目標 H28年度	H29年度
		(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
弥生の里ホール利用件数	件	240	240	240	240	240
(説明) 年間の利用件数		203				
(説明)						
(説明)						

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度H25年度)

事務事業名	担当課名	H25年度事業費(決算額 単位:千円)	必要性の点検	目標達成状況の点検	実施内容方法の点検
文化活動推進事業	生涯教育課	2,710	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
弥生の里ホール運営事業	生涯教育課	4,711	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		7,421			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 最終目標(H27)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input checked="" type="radio"/> B 最終目標(H27)達成に向け、順調に成果があがっている <input type="radio"/> C このままでは、最終目標(H27)達成が難しい (説明) 指標の目標に向け順調に成果が上がっている。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある (説明) 近年、心の豊かさや生きがい、生活の潤いなどが重視され、住民の文化・芸術への関心が高まっている。今後も住民のニーズに対応した多様な事業を展開する必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 弥生のホールでの自主事業のあり方、文化祭での一般作品の減少傾向にあることや芸能発表が文化団体に限られていることなど検討が必要。

4. 次年度の展開方針(部としての判断)

施策の方向性	〔複数選択可〕 <input type="checkbox"/> 重点化して推進 <input checked="" type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input type="checkbox"/> その他 ()				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	(説明) 弥生の里ホールの利用を促し、住民の自発的な芸能文化の発表の促進を図る。また、自主事業の開催により多くの方に芸術文化に親しむ機会を提供する。文化祭では、住民の芸能や工芸・美術作品制作活動など、日頃の成果を発表する場として支援していく。				
内部評価のコメント	事務事業名	H25年度 決算 (単位:千円)	H26年度 予算 (単位:千円)	優先性	H27に向けた 経営資源(事業費)の 方向性
	文化活動推進事業	2,710	3,478	3 普通	現状のまま
	弥生の里ホール運営事業	4,711	5,062	3 普通	現状のまま
	[新規]				
	計	7,421	8,540		
外部評価委員のコメント	文化祭は、文化団体・教室参加者だけではなく、多くの住民の方が作品や芸能発表ができる場となるように工夫する必要がある。自主事業については、限られた財源の中で、いかに多くの方に楽しんで参加していただける企画ができるかが課題である。 住民が、日頃の学習成果を発表する場として、文化祭は成果を上げているが、弥生の里ホールで行われる自主事業については、住民のニーズに応じた文化振興に努めていただきたい。				

施策評価シート(対象:H25年度実施施策)

施策名	スポーツに親しむ環境の整備	総合計画位置づけ	2-3-1
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課
		担当課名	-

1. 施策概要

めざす成果目的	体育施設の維持管理に努め、住民が身近な地域で安全にスポーツが行えるようにする。
施策概要	住民のスポーツ活動の拠点として、各体育館・健民運動場及びテニスコート等の環境の整備を行う。

2. 実施結果

指標名 説明	単位	H25年度	H26年度	H27年度	後期基本計画目標 H28年度	H29年度
		(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
体育館利用件数 <small>(説明) 中央体育館、やすらぎ体育館 の年間利用件数</small>	件	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500
		2,419				
テニスコート利用件数 <small>(説明) テニスコートの年間利用件数</small>	件	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600
		1,462				
健民運動場利用件数 <small>(説明) 健民運動場の年間利用件数</small>	件	250	250	250	250	250
		274				

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度H25年度)

事務事業名	担当課名	H25年度事業費(決算額 単位:千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法 の点検
体育施設管理事業	生涯教育課	20,649	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地がある が時間が必要
計		20,649			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 最終目標(H27)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input checked="" type="radio"/> B 最終目標(H27)達成に向け、順調に成果があがっている <input type="radio"/> C このままでは、最終目標(H27)達成が難しい (説明) 平成25年度より第一体育館が閉鎖となったことにより、中央体育館の利用が増したが、全体としては、少しであるが体育館の利用件数は減少している。テニスコート、健民運動場の利用は増加し、ほぼ目標に到達している。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある (説明) 施設の老朽化を改善する為、定期的な点検や改修を行い、住民が、安全で快適にスポーツができる環境を整える必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 年次的な計画性をもって改修を行う必要がある。

4. 次年度の展開方針(部としての判断)

施策の方向性	〔複数選択可〕 <input type="checkbox"/> 重点化して推進 <input checked="" type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input type="checkbox"/> その他 () (説明) 施設の適正な管理により、住民が安全・快適に体育施設を利用できるように努める。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	H25年度 決算 (単位:千円)	H26年度 予算 (単位:千円)	優先性	H27に向けた 経営資源(事業費)の 方向性
	体育施設管理事業	20,649	29,556	3 普通	現状のまま
	計	20,649	29,556		
内部評価のコメント	優先順位をつけ、順次改修を行う必要がある。				
外部評価委員のコメント	住民が安心してスポーツが行えるよう、各体育館やテニスコートなどの施設の維持管理に努めていただきたい。				

施策評価シート(対象:H25年度実施施策)

施策名	スポーツ・レクリエーション活動の普及・啓発	総合計画位置づけ	2-3-2
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課
		担当課名	-

1. 施策概要

めざす成果目的	子どもから高齢者まで幅広い年齢層の住民が、多種多様なスポーツに親しめるよう、関係機関と連携し、気軽にスポーツ・レクリエーション活動に参加できるようにする。
施策概要	卓球やバドミントン等のスポーツ教室の開催や春・秋の総合競技大会、町民マラソン・駅伝大会を開催する。また、親子バレーボール大会や歩こう会を開催し、体育協会、スポーツ少年団への助成を行う。

2. 実施結果

指標名 説明	単位	H25年度	H26年度	H27年度	後期基本計画目標 H28年度	H29年度
		(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
スポーツ教室開催数 <small>(説明) テニス・ソフトテニス・ジュニア サッカー・バドミントン・卓球等</small>	回	250	250	250	250	250
		302				
健康スポーツの集い開催数 <small>(説明) 誰でもが参加できる健康ス ポーツの集いの年間開催回数</small>	回	3	3	3	3	3
		3				
健康スポーツの集い参加者数 <small>(説明) 健康スポーツの集いの参加者 合計人数</small>	人	80	80	80	80	80
		93				

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度H25年度)

事務事業名	担当課名	H25年度事業費(決算額 決算額:千円)	必要性の点検	目標達成状況の点検	実施内容方法の点検
社会体育振興事業	生涯教育課	4,073	B:普通	A:目標よりも大きな成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
スポーツ教室開催事業	生涯教育課	1,326	B:普通	A:目標よりも大きな成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
春・秋総合競技大会開催事業	生涯教育課	2,211	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
マラソン・駅伝大会開催事業	生涯教育課	592	B:普通	C:目標とする成果が得られなかった	B:見直す余地があるが時間が必要
計		8,202			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 最終目標(H27)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input checked="" type="radio"/> B 最終目標(H27)達成に向け、順調に成果があがっている <input type="radio"/> C このままでは、最終目標(H27)達成が難しい (説明) スポーツ教室の開催数、健康スポーツの集いの開催数・参加者数については、指標目標は到達している。しかし、歩こう会やマラソン・駅伝大会などは天候に左右されることもあり、平成25年度は、駅伝大会が雪のために中止となった。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある (説明) 住民の健康志向は高く、スポーツを通じた健康増進を図る必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) スポーツ教室の開催については、平成26年2月に設立し、平成26年度より事業を開始した総合型地域スポーツクラブの「青垣すまいるクラブ」と競合しないように相談をしていく。

4. 次年度の展開方針(部としての判断)

施策の方向性	[複数選択可] <input type="checkbox"/> 重点化して推進 <input checked="" type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input type="checkbox"/> その他 ()				
施策を進める上での問題点・課題	(説明) スポーツ教室、春・秋季総合競技大会、町民マラソン大会、駅伝大会などの事業を継続して行い、スポーツを通じた住民の健康増進を図る。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	H25年度 決算 (単位:千円)	H26年度 予算 (単位:千円)	優先性	H27に向けた 経営資源(事業費)の 方向性
	社会体育振興事業	4,073	5,259	3 普通	現状のまま
	スポーツ教室開催事業	1,326	1,300	3 普通	現状のまま
	春・秋総合競技大会開催事業	2,211	2,293	3 普通	現状のまま
	マラソン・駅伝大会開催事業	592	938	3 普通	現状のまま
	[新規]				
	計	8,202	9,790		
内部評価のコメント	住民が年齢や体力に応じたスポーツを継続して行うための足掛かりとなるように、スポーツ教室や歩こう会、イベントなどを開催していくことが必要である。また、競技大会の開催により、日頃の練習の成果を確かめ、より技術向上が図られることとなる。				
外部評価委員のコメント	体力や健康の維持管理のために、ウォーキングをされている方が増えている。このような健康志向の高まりをより促進させるためにも、誰もが参加できるスポーツ教室や大会を工夫していただきたい。				

施策評価シート(対象:H25年度実施施策)

施策名	文化財保護事業			総合計画位置づけ	2-4-1
部名	教育委員会	主担当課名	文化財保存課	担当課名	-

1. 施策概要

めざす 成果目的	文化財保護の精神と認識を深め、国・県指定の有形文化財及び史跡を後世まで貴重な財産として残す。
施策概要	唐古・鍵遺跡と黒田大塚古墳内の公有地の管理及び史跡の現状変更等、進達業務。その他国・県・町指定文化財所有者に防犯、防災の指導。

2. 実施結果

指標名 説明	単 位	H25年度	H26年度	H27年度	後期基本計画目標 H28年度	H29年度
		(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
① 指定文化財等の見回り・点 検回数(回) (説明) 指定文化財等が適切な状態 であるかの見回り年間回数	回/ 年	36	36	36	36	36
		54	—	—	—	—
② 町文化財指定件数(累計) (説明) 町が指定する文化財累計件 数	件/ 年	6	7	7	8	8
		6	—	—	—	—
③ (説明)						
			—	—	—	—

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度H25年度)

事務事業名	担当課名	H25年度事業費 (決算額)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法 の点検
文化財保護事業	文化財保存課	11,010	A:高い(義務)	B:概ね目標の成 果が得られた	B:見直す余地がある が時間が必要
計		11,010			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 最終目標(H27)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input checked="" type="radio"/> B 最終目標(H27)達成に向け、順調に成果があがっている <input type="radio"/> C このままでは、最終目標(H27)達成が難しい
	(説明) 唐古・鍵遺跡や黒田大塚古墳は、見回り時に不具合があった施設等の修理をした。その他の指定文化財については、消防署の査察の際、各管理者に対し防犯・防災の指導を行った。特に本年度からは、磯城郡の文化財関係者(警察署・消防署、役場文化財担当課、文化財保護指導員)が集まり、防犯・防災に対する意見交換をし、今後の連携を強める確認ができた。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある
	(説明) 後世に、本町の財産を残し伝えていくため、文化財の維持管理には注意を払っていく必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 指定文化財の管理者が、常駐・固定の場合は、特に問題ないが、大字での管理のように、管理者(代表者)が変更されていく場合は、文化財の防犯・防災の意識を認識していただかなければならない。唐古・鍵遺跡については、今後の史跡公園整備工事等において、見学者が安全に訪れることができるよう配慮しなければならない。

4. 次年度の展開方針【部としての判断】

施策の方向性	<input type="checkbox"/> 複数選択可 <input type="checkbox"/> 重点化して推進 <input type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input type="checkbox"/> その他 ()				
	(説明) 文化財を大切に守り、後世に残していくためにも管理者や住民とともに防犯・防災の意識を高めていく。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	H25年度決算	H26年度予算	優先性	H27に向けた経営資源(事業費)の方向性
	文化財保護事業	11,010	18,186	3 普通	現状のまま
	【新規】	—	—		—
	計	11,010	18,186		
内部評価のコメント	町の貴重な文化的遺産を後世に伝えるため、町として文化財指定できる物件について調査を進めていく。また文化財の防犯・防災について、様々な方法により啓発活動を推進する。				
外部評価委員のコメント	遺跡や寺社等、管理が広域にわたり大変ではあるが、町の財産をより良い状態で将来に残せるよう、警察署・消防署や管理者、住民等と連絡を密に取り、特に防犯、防災に努めていただきたい。				

施策評価シート(対象:H25年度実施施策)

施策名	唐古・鍵考古学ミュージアム運営事業	総合計画位置づけ	2-4-2
部名	教育委員会	主担当課名	文化財保存課
		担当課名	—

1. 施策概要

めざす成果目的	ミュージアムの来館者が快適に観覧でき、満足していただけるようにする。また、文化財に対する理解・愛着を深め、学習意欲・愛護精神を育成する。
施策概要	ミュージアムの適切な管理や受付業務を行う。イベントや企画展、講座等を開催し、情報発信を行う。また、小学校の総合的な学習など学校の支援をする。

2. 実施結果

指標名 説明	単位	H25年度	H26年度	H27年度	後期基本計画目標 H28年度	H29年度
		(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
① 唐古・鍵考古学ミュージアム入館者数(人) (説明) 常設展・企画展の年間入館者数	人/年	7,500	7,500	7,500	7,500	8,000
		9,316	—	—	—	—
② 総合的な学習 項目別実施回数(回) (説明) 町内小学校6年生を対象とした総合的な学習授業項目数	回/年	23	23	23	23	23
		25	—	—	—	—
③ 唐古・鍵考古学ミュージアムのホームページアクセス件数(件) (説明) HP年間アクセス件数	件/年	15,000	15,000	15,000	15,000	17,000
		17,176	—	—	—	—

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度H25年度)

事務事業名	担当課名	H25年度事業費 (決算額)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法 の点検
唐古・鍵考古学ミュージアム運営事業	文化財保存課	5,664	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		5,664			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<p>● A 最終目標(H27)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている</p> <p>○ B 最終目標(H27)達成に向け、順調に成果があがっている</p> <p>○ C このままでは、最終目標(H27)達成が難しい</p> <p>(説明) 昨年度から実施した観覧無料(家庭での夏の節電対策とともに、ミュージアムや文化財に親しんでもらうため)により、多くの観覧者が来られたため目標を上回った。小学校の総合的な学習の時間における体験学習も、ボランティアのサポート体制が整い、軌道に乗っている。目標数値は、各学校からの希望により出前授業やミュージアムの見学・体験学習で、数値を上回っている。HPアクセス件数も、目標値を上回っている。</p>
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<p>○ A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある</p> <p>● B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない</p> <p>○ C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある</p> <p>(説明) 町の財産であるということをより多くの人々に認識してもらうためにも、この事業は重要である。その中で、ミュージアム来館者の多様なニーズに応えられる展示・研究成果の発表について考慮していく必要がある。また、文化財の啓発も重要である。町内の子ども達には、各小学校で実施している総合的な学習の時間を利用し、自分たちの住んでいる町の歴史について体験を通じ学ぶ良い機会になる。史跡公園が完成すれば、連携を取りながらこの事業をすすめていかなければならない。</p>
施策を進める上での問題点・課題	<p>(説明) ミュージアムの存在について、周知できていない部分もあり、また、来館してもらう仕掛けをどのようにおこなうかが課題である。また、町所有文化財をより多く展示できるよう工夫する必要がある。体験学習等の一部メニューについて、児童数の関係や学校周辺の環境により実施できなくなっている場合もあるため、それぞれに合った対応が必要になってきている。</p>

4. 次年度の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	〔複数選択可〕 <input type="checkbox"/> 重点化して推進 <input type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input type="checkbox"/> その他()				
	(説明) ミュージアムに関して、いろいろな形でサポートしていただいているボランティアについて、メンバーの支援や育成に努めていきたい。また、ミュージアムにより多くの人々が来もらえるような企画を考えていく。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	H25年度 決算	H26年度 予算	優先性	H27に向けた 経営資源(事業費)の 方向性
	唐古・鍵考古学ミュージアム運営事業	5,664	6,039	3 普通	現状のまま
	【新規】	—	—		—
		—	—		—
	計	5,664	6,039		
内部評価のコメント	文化財愛護精神の育成は、目にみえた形で表すことが困難であるが、小学校での体験学習は有効性が高いと思われ、ボランティア組織とともに取り組む必要がある。				
外部評価委員のコメント	指標に挙げられている数値は、どれも目標を超えており、事業が順調に進められています。特に観覧料の無料期間を設けられ、幅広い人に来館いただけたのではないかと考えます。今後とも平成30年完成予定である唐古・鍵遺跡史跡公園のPR等も含め文化財行政をすすめていただきたい。				